

第 24 回支援連絡調整会議 議事録

日 時：2015 年 6 月 16 日(火) 10:00~12:00
場 所：陸前高田市コミュニティホール 中会議室
出席者：16 団体 23 名（内オブザーバー1 団体 1 名）
進行：酒井（事務局）
文責：佃（事務局）

1. 事務局連絡(10:00~10:05)

- 2014 年度 支援概況調査 集計経過報告
現在事務局で集計中。最終的に、アンケートを 37 団体から、活動履歴シートを 36 団体から提出いただいた。来月の支援連絡調整会議で結果を報告する予定。
- Web サイト「高田のなかま」更新報告
今年度の団体紹介票更新は各団体にご協力いただき完了。Web サイトの「高田のなかま」の情報も更新済み。各団体、掲載情報を確認のうえ、間違い等あれば、事務局までご連絡いただきたい。
- Web サイトへの各団体の発行物(紙媒体)掲載について
昨年度、仮設住宅連絡会が発行していた「連絡会通信」をデータ化し、毎月まちづくりプラットフォームの Web サイトに掲載していた。同様に、各団体が発行する紙媒体を掲載できるので、要望があれば事務局までお知らせいただきたい。
- 「陸前高田 NPO キャラバン in 東京」について
7 月 11 日(土)、東京池袋で、陸前高田の NPO が集うイベントとして開催される。陸前高田の NPO の有志による実行委員会が主催。まちづくりプラットフォーム事務局も実行委員として参加している。
「4 年と 4 カ月」の日に、NPO の立場から“今の陸前高田”と“これから”に向けた話を、参加者と意見交換しながら発信をしたい。これまで陸前高田に関わって下さった方、またこれから関わりたいという方との接点を作り、ファンやリピーターを新たに発掘したい。
《内容》
 - ①戸羽市長の基調講演
 - ②シンポジウム(テーマは 2 つ、市長と NPO のディスカッション)
 - ③市内の NPO 団体のブースを 10 個ほど設置各団体がこれからどのような取組みを行い、そこに関東からどのように関わってほしいか

を、来場者と意見交換しながら話をする。活動報告に留まらず、特にこれからに向けた話をしていきたい。

③は市内の NPO に声掛けし、参加団体は決定しているが、それ以外の団体のチラシや報告書設置の場所を設ける予定。設置には協力金として、1 資料につき 2,000 円がかかるが、当日プログラムに協力団体として記載する。当日の来場者として 300～400 人くらいを想定。なお、設置に係る郵送料・振込手数料等の費用は団体負担。

設置のご希望やその他詳細については、プラットフォーム事務局までご連絡いただきたい。

2. 活動報告(全体)(10:05～10:20)

- ・全参加団体より活動報告およびイベント告知など共有
- ・質問あれば適宜。各団体 2～3 分程度で報告

※以下発表順、発表者敬称略に記載

※発表の順番は第 24 回支援連絡調整会議参加者名簿に準ずる。番号は名簿の番号を記載

◆活動報告

1	陸前たがだ八起プロジェクト／蒲生	市内最大のモビリア仮設住宅は当初 168 世帯あったが、現在、再建する方が増え 120 世帯程度に減少。小友・広田町内の住民も、たくさんの方が自力再建や災害公営住宅へ転居。その多くが「淋しい」と口にしてしている。仮設住宅の支援に留まらず、災害公営住宅や自力再建に関係なく、地域のコミュニケーションに取り組みたい。現在、温泉バスツアー・マージャン教室(サークル)・畑づくりを行っている。今後は、コミュニティセンターを使いながら引き続き進めていきたい。
2	いわて連携復興センター／葛尾	今度大災害が起こった際に、今の法制度ではもれてしまう方々を救うために、阪神淡路大震災を経験した神戸の NPO が始めた、一人ひとりが災害復興制度を見直し新しい復興制度を作っていこうという流れの中で、東北・岩手にも声が掛かり、3 月に仙台、5 月に岩手でシンポジウムが開催された。現在、「一人ひとりが大事にされる災害復興法をつくる会(略称:つくる会)」の活動を中心に行い、先日、陸前高田の団体が参加したヒアリングを実施。法律に関わる難しい話ではなく、みなさんが日頃おかしい・法の壁があると感じることを拾い出している。陸前高田は、まだもれている方や今の制度では救えない方がたくさんいるという話を聞く。来年 3 月頃の立法を目指す。立法だけでなく、運用面でも行き届くようにしたい。今後は、県北にも広めていく予定。

3~4	大船渡地区被災者相談支援センター／平野	被災者支援相談センターの5月の相談実績報告。 相談員による相談は、月間104件(ほぼ前月並み、前年度からやや減少)。内、住宅再建に関する相談は、66件で全体の6割強を占める。専門家(弁護士・司法書士・ファイナンシャルプランナー)相談は、13件。 住宅再建相談会を6/5~7に開催。陸前高田市(6/7)では13組14名が参加。次回、8/7~9に実施予定(陸前高田市は8/9)。詳細は、センターのチラシ等でお知らせする。 センター便り6月号は作成中、間もなく配布予定。岩手復興便り85号(6/1発行)では、米崎のリンゴ農家の安生さんの紹介記事を掲載。
5	陸前高田まちづくり協働センター／黄川田	昨年度から継続して、市民会議を行っている。各地区で開催したいが、現在は高田町のみ開催。毎月のように集まり様々な話をしている。集まった人に限らず、その場に参加できない人の声が聞きたい・知りたい、そしてこれからのまちづくりに活かしていきたいという声があり、高田町民へアンケートを実施した。現在集計中で、作業完了後に再度集まっていただき、アンケートを基に話をしていく予定。
6~7	NEC ネットズアイ(ひまわりハウス)／浅川・村上	今年で3年目を迎える。社内で事業継続が承認された。引き続きよろしく願いたい。6月より前任の塩田の後任で浅川が着任。4~5月で300名の利用者があった。常連さんの中には100回目の来館という方もいた。6月には、3回ほど社協が3B体操の会場として使用予定となっている。
8	高田大隅つどいの丘商店街／山本	6/7に商店街3周年記念イベントを開催。仮設商店街の使用期限が5年の中、3年を迎えてしまった、まだ2年ある、両方の思いがある。つどいの丘だけでなく市内の商店街は、使用期限に迫られながら営業している。たくさんの方々に使用していただけるように様々な工夫をしていきたい。 今回のイベントで、高田一中の吹奏楽の出演の際、保護者のお父さん方が手伝って下さった姿が印象的であった。
9 ~ 10	岩手県復興局生活再建課／木戸口	今年度重要課題として『被災地におけるコミュニティ対策』を考えている。応急仮設から転居が進むことによって、「応急仮設のコミュニティ能力の機能の低下」また「災害公営住宅に移った先での新たなコミュニティの形成」という2つの視点での支援が必要だと考えている。庁内・関係機関と連携をとり、情報や課題の共有を図り、支援策を検討していく。

11	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン／木下	<p>「教育」「子どもの保護」「子どもにやさしい地域づくり」が 3 本柱。「教育」では奨学金の支援、「子どもの保護」では学童クラブの指導員向けの研修、「子どもにやさしい地域づくり」では子どもまちづくりクラブを行っており、つどいの丘商店街 3 周年イベントに、子どもたちが参加。</p> <p>7/23 に子ども支援者向けの講習を開催予定。子ども支援に携わる時の接し方等、子ども支援について話せる機会を作りたい。チラシが完成次第、共有したい。</p>
12	もっちいと森の仲間たち／望月	<p>5 月に引き続き、江刺の若い農家の方からの花や野菜の苗を、大槌から陸前高田の仮設や学校、きりりんきつずやあゆっこに配布。また、花巻のシニア大学 2 学科の 60 名程を引率して、三陸町から陸前高田にかけて花と野菜を植えた。</p> <p>夏休みに、高校生・大学生のコーディネートを予定しており、その場しのぎではなく次につながるような支援活動にしたいと模索中。市被災者支援室からの依頼で、佐賀県の方から頂いたひまわりの種を配布している。欲しい団体があれば、是非ご活用いただきたい。</p>
13 ~ 16	陸前高田市復興支援連絡会／島倉	<p>5・6 月は通常のお茶会開催、外部の支援団体との連携等を含むマッチングを行った。中間支援は、パクト等他団体各所と連携をとりながら進めている。</p> <p>4・5 月まで様子を見ていた災害公営住宅への支援は、自治会長からニーズがあり 6/10 に西下災害公営住宅でお茶会を開催。今後は、他の公営住宅でもニーズがあればお茶会を開催し、その様子を社協と共有し、連携をとりながら進める。</p>
17 ~ 18	陸前高田市民生部被災者支援室／阿部	<p>義援金や寄附金の受付け、被災者の住宅再建に関わる補助金の受付けや相談を行っている。</p> <p>6/13 に、県行政書士会による何でも相談会を開催。件数は 4 件。住宅再建相談の傾向として、防災集団移転の方の申請が多い。5 月は、義援金・寄附金ともに 26 件。</p> <p>望月さんに繋いだ佐賀県の個人の方からのひまわりの種は、市長の著書をご覧になったことがきっかけとなっている。</p>
19	ハマトラ 横浜フットボールネットワーク／篠原	<p>7/4 横田小学校周辺を対象に、横田小体育館でフットサル交流会とランチを地域のみなさんと一緒に行う。横田地区に限定せず、どこの地域からもたくさんの方に参加していただきたい。中には、横田小学校から転校して引越しても、子ども同士のネットワークで繋がっていて参加くださる方もいる。</p>

20	教育支援チーム「まつ」 ／佐々木	<p>先月総会を行い、昨年度に引き続き「小中学校の子どもたちの見守り」「被災した小中学校への支援活動」「先生方の居場所」「不登校の子どものフリースペース(昨年度から実施)」を行っていく。昨年度までは東側の学校を対象にしていたが、今年度からは市内全地域を対象とする。</p> <p>5/29 に市内の校長先生に集まっていたいただき情報交換会を開催。その中で、特に発達障がい児の割合の増加していることの話が出る。現在は、被災地支援で職員が加配となっているが、これがなくなったときに学校では対応しきれなくなるという声があり、当団体ではどのようなことが出来るか模索中。</p>
21	遠野山・里・暮らしネットワーク ／佐藤	<p>5・6 月大阪の生協パルコープの職員研修の受入れを行った。大槌と陸前高田で3泊。陸前高田では、広田で農業体験を行った。今年度も予算がつき、仮設住宅の方々を遠野の水光園にバスで送迎し、入浴・買い物をする「ほっとひといき活動」を行う。1週間に1回のペースで、来年の3月まで継続。今回は、竹駒小学校仮設・滝の里仮設で開催(1回20名程)。費用は昨年度の300円から500円に変更。</p> <p>引越しボランティアに関して、5月に高台移転のところがあつたが、今のところニーズは少ない。</p>
23	夢ネット大船渡 ／河野	<p>以前の陸前高田担当が退職。</p> <p>手芸講習を仮設で行ってきたが、今年度から新たにパートを雇用し、災害公営住宅や集会所で手芸講習を展開していく。</p> <p>現在、自治会長等にコンタクトをとっている。</p>
22	パクト ／桑久保	<p>子どものための居場所づくり「みちくさルーム」を中心とした子ども支援活動、ボランティアの受入れを行う復興サポートステーション運営事業、陸前高田市二又復興交流センター運営事業の3本柱を中心として活動。年度替わりやGW時期を越え、若干落ち着き通常通りの活動となってきた。</p> <p>7月に、二又復興交流センターが営業開始から2年を迎えるため、この間の受け入れ状況を振り返っている。当初は、個人や少人数のグループが多かったが、今は用途が全く変わってきていて、学校行事や旅行(体験や視察)等のオファーが増えている。今年は、顕著に小学校から大学までまんべんなく学校関連の依頼がくるようになっている。陸前高田市が、まちとして交流人口の増加促進に注力されているので、我々もそこの一助になれるように関わっていきたい。</p>

3. 活動分野ごとの討議・意見交換(グループ議論)

◇「まちづくりプラットフォームの考える陸前高田のまちのビジョン再検討」(シートへの記入時間)

- ・ 作業用シートの項目に従い、「現在実施している」「これから取り組みたい」の項目にチェックを記入。
- ・ 各団体のミッション、分野に基づいて全項目から優先順位上位 5 つを記入。

※ ビジョンは運営委員会に持ち帰り協議した後、次回以降の支援連絡調整会議で共有予定。

※ 補足:ビジョン作成の経緯・目的

これからの陸前高田の復興・まちづくりを NPO や支援団体が補完していくために、具体的な方針を検討していくとなった時、NPO や支援団体としてのビジョンやアクションが必要となる。その中で、他団体や行政・他のアクターとの連携を深める為に、ビジョンづくりが必要ではないかということで、市の復興計画の 6 つの基本方向に沿った形で検討を進めている。

◇「今後の連携・協力・サポート体制構築に向けた情報の整理と一覧化および意見交換」

<1G 地域・コミュニティ>

➤ 意見交換

- ・ 次の見通しが立ってきた地域・そうでない地域、仮設でも次を見据えて残っている方・高齢者や高田・今泉地区の高台移転の見通しが立たず残っている方等さまざまな状況。
- ・ 災害公営住宅に入った方の中には、「早く来すぎてしまった」という声も聞こえる。一つは、お金の問題(家賃・新しく購入する物等)、もう一つはコミュニティの再形成への不安。
- ・ さまざまな情報がある中で、必要としている方に必要としている情報を届けるには、情報発信方法に工夫が必要である。
- ・ 災害公営住宅の備品は、復興交付金の効果促進事業で最低限のものは用意出来る。小さなもの(ポットや湯飲み等)やその他は、赤い羽根や宝くじ助成を使えるが、いずれにしろ自治会がなければ申請できない。自治会の有無の重要性を改めて確認。
- ・ すべての入居者が決まっていない公営住宅では、自治会が作られていないところもあり、自治会費が徴収できていない等で光熱費が払えないから集会所を使いたくないという、消極的な話もよく出る。やはり、自治会のスタート時点の支援が必要。
- ・ 再建した方々を受け入れる側に対して、コミュニティライフサポートセンターが移行期等の研修を行っている。しかし、研修の情報が一部の関係者にしか届いていない。せっかくなので、行政・NPO・地域の自治会の関係者等へも情報提供し、地域全体でサポートして行けると良い。

<2G 子ども・教育/子育て・女性>

➤ 意見交換

- ・ 子どものサポートはもちろん、親のサポートも重要でどのようにサポートしていくかという話から、親同士が集まる場に対して何かサポートは出来ないか議論。

- ・ 発達障がいの子もだけでなく、その子どもを抱える親や家族のサポートも大切。
男性の姿がなかなか表には出てこない・見えない。また、祖父母等家族間での理解が必要等の意見が出された。
- ・ 市としてノーマライゼーションのいないまちを掲げているので、子どもたちの見守りについて地域でも取り組んでいかなければならない。
- ・ スポーツが得意でない子どもの居場所、活躍の場を作れると良い。
- ・ 前回の振り返りで、高田東中学校をとりまく団体間の連携の必要性に関して再度話をした。

<3G 商工・観光・産業・その他>

➤ 意見交換

- ・ 仮設商店街の使用期限が迫っている中で、新しい中心商業地に本設するのか、それとも残るのかという間でのギャップをどうしていくのかという課題がある。
- ・ 商店街自体が“生活用”なのか“観光用”なのかという部分が中途半端である。
実際、二又復興交流センターの利用者に買い物の場所を聞かれても、物産センターしか案内出来ないという現状。
→観光客用の商店街へ色を変えていくということが大事ではないか
- ・ 観光客の足止めをさせる視点として、
(例) 電気自動車の充電時間の待ち時間を使って市内を歩いてもらう。
コインランドリーの待ち時間に、探索や無駄な買い物をしてもらう
→ひとつの何かをきっかけ(仕掛け)をつくり、足止めをしてもらう
ポイントマップを山本さん(つどいの丘商店街)が作成。歩くことにフォーカスし、1ヶ所で1時間程使えるものとなっている。
今後は、陸前高田の“通過”のイメージをどう崩すかということを具体的に考えていかなければならない。
- ・ 話題提供: 伝承館の子ども広場の遊具(市がメンテナンス?)等、事故につながらないように定期的なメンテナンスが必要な場所(普段の生活の中で目に付く場所)に関してはピックアップしておく必要があるのではないか。

【次回の開催日程】

- ・ 第25回支援連絡調整会議
7月14日(火)10:00~12:00 ※会場及び詳細は別途連絡